

吉田町長に聞くこれからの町づくり



現在の中心市街地は、解体が進み利用されないままの空き地が増えています。こうした状況を逆手に、今だからこそできる大胆な整備をしていきたいです。新しい町は、暮らしやすい町であるのと同時に、全く新しい考え方を取り入れていきます。

例えば「街並み」と聞くと、通り沿いに建物が立ち並ぶ様子を想像されると思いますが、「公園の中に暮らすような」緑豊かで解放感ある街並みにしたいと考えています。

いよいよ浪江駅周辺の整備事業がスタートしますね

今回の連携協定に期待することは何ですか

先生方の知見と熱意によって、駅前周辺は、町の歴史、文化と最先端技術が融合した素晴らしい街並みになることでしょう。

先生方の手がけた町には、その街並みや建物を見るために世界中から観光客が訪れるそうです。約8haもの街並みをデザインするのは「全国初」と聞いておりますので、他に類を見ない、世界的にも注目を集めるものになると期待しています。私自身も非常に楽しみです。

町民の皆さんへのメッセージをお願いします

浪江町は、相双地域の玄関口です。町そのものを「誇り」にできる町にしていきますので、どうか皆さんのお力添えをお願いします。

町政懇談会でも、町づくりの様々な説明や意見交換を行いますので、ぜひご参加いただきますよう、よろしくお願います。

問 総務課秘書係 TEL 0240 (34) 0239

協定式のコメント

隈 研吾氏

「町が目指す再生可能エネルギーを活用した「持続可能なまちづくり」に感銘を受けた。これまでの私たちの経験やデザインの力をいかすことで、「持続可能なまちづくり」を実現し、世界に示したい。」

【隈研吾氏のご紹介】

建築家、東京大学特別教授・名誉教授。これまで20か国を超す国々で建築物を設計し、国内外で様々な賞を受けている。近年では国立競技場（オリンピック・スタジアム）、高輪ゲートウェイ駅などを手がけている。

伊東 順二氏

「震災後の浪江町の姿には胸が締めつけられたが、この事業に関わる皆さんの想いに希望を感じている。この土地に根づく歴史や文化と最先端技術を融合させ、水素を活用した最先端のSDGsを体現する町になってほしい。私自身、この事業には熱い想いを持って参加している。」

【伊東順二氏のご紹介】

東京藝術大学 COI拠点 特任教授。「パリ日本文化会館開館記念デザインの世紀展」、「文化庁メディア芸術祭企画展」のほか、アート、音楽、建築、都市計画など分野を越えたプロデュースを多数手がけている。

住友商事株式会社 森 肇氏

「当社は、今年1月「水素利活用及び復興まちづくりに関する連携協定」を締結し、町と共に取り組んできた。今回の協定によって、復興まちづくりが一層進展し、希望あふれる町となるよう協力させていただきたい。」

【住友商事株式会社のご紹介】

浪江町とは令和3年1月に「水素の利活用及びまちづくりに関する協定」を締結。マルチ水素ステーションの設置を検討しているほか、浪江町における交流拠点づくりのサポートなどを実施している。

問 建設課中心市街地準備室 TEL 0240 (34) 0227



駅周辺を視察

浪江駅周辺整備事業に関する連携協定を締結

9月5日、浪江町と株式会社隈研吾建築都市設計事務所、伊東順二事務所および住友商事株式会社は、「デザインの力による浪江町の復興まちづくりに関する連携協定」を締結しました。

今回、協定を結んだ隈研吾氏は国立競技場（オリンピック・スタ

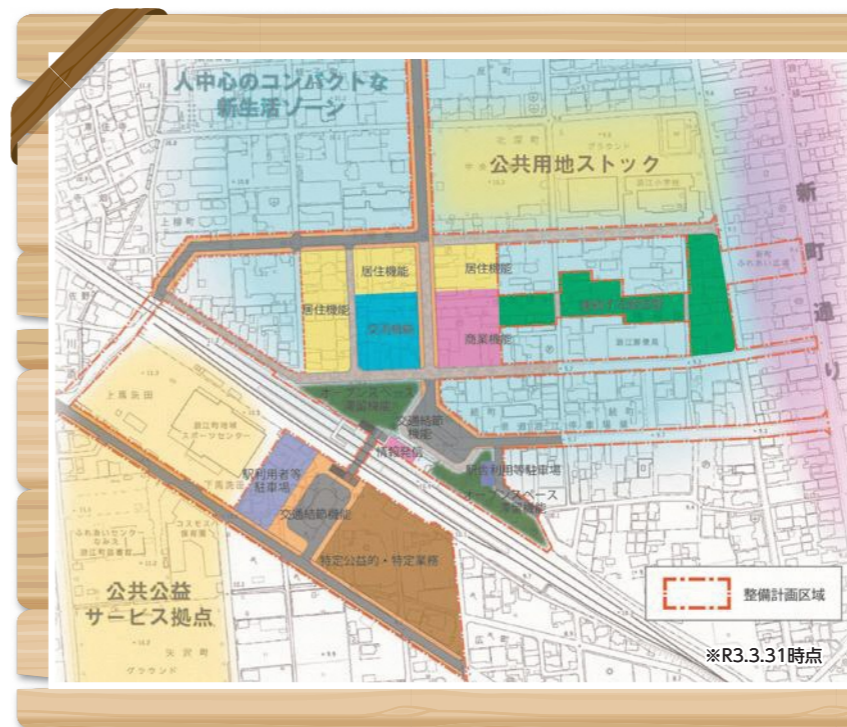
ジアム）を設計したことで有名ですが、アートや都市計画などに多くの実績を持つ伊東順二氏とともに、世界中に地域の風土や文化を取り入れた様々な作品を発表しています。協定に先立ち、7月には町内の視察を行い、町の現状、伝統文化や復興にける思いをご理解いただきました。

本協定では、隈氏・伊東氏により、林業が盛んであった町の特徴を生かし、木材を基調とした建物や、人が集い、交流する都市空間などのデザインが行われます。また、住友商事株式会社により、都市空間デザインと水素や再生可能エネルギー利活用の調和と相乗効果、イノベーションを創出するまちづくりが進められます。相互に連携・協力して、浪江駅周辺地区の魅力を高め、帰還や新規移住・定住の促進につなげていきます。今回の浪江駅周辺で行う隈氏・伊東氏による建物や街並みのデザインは約8haと、全国初の規模になります。浪江駅周辺整備事業は、2026年度の完成を目標としています。

《協定内容》

- (1) 建物や都市空間等のデザインに関すること
- (2) 都市空間デザインと水素や再生可能エネルギー利活用の調和と相乗効果、イノベーションを創出するまちづくりに関すること
- (3) 地場産業の振興に関すること
- (4) 町の活性化・情報発信に関すること

「浪江駅周辺地区の都市計画」



浪江駅周辺地区は、現在、建物解体により空き地が広がる状況にありますが、「町の顔」としてのにぎわいを取り戻すため、町では駅周辺の約8haを先導エリアとして整備し、そこから町内全体ににぎわいを波及させていくことを計画しています。

具体的には、**交流機能**（レンタルオフィス、移住定住窓口など）、**帰還町民や移住者向けの居住機能、商業機能、公共空間機能**（駅前オープンスペース、道路など）、駅東西自由通路などを検討しており、間もなく操業開始を予定している「福島高度集成材製造センター」で製造される「木材、や、「福島水素エネルギー研究フィールド」で作られる「水素、などの再生可能エネルギーを取り入れた、環境に優しい「持続可能なまち」を目指して取り組んでいく予定です。